

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
教育課程論	講義	2	齋藤 尚志
<p><b>【授業のテーマ及び到達目標】</b></p> <p>学習指導要領を基準として小学校における編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解する。また小学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。</p> <p>①学校教育において教育課程がもつ役割・機能・意義を理解する。</p> <p>②教育課程編成の基本原則および学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。</p> <p>③教科や学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。</p>			
<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>まずは教育課程編成の原理や変遷など基本的な事項について学ぶ。次に、日本の教育課程を歴史(近現代史的)に考察し、その特徴や意義を理解する。適宜、これからの日本の教育課程の核となる「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメントについて理解を深める。</p> <p>また授業はレジュメを用いながら、各回のテーマを中心に講義を行うとともに、必要に応じて映像を用いる。なお、講義内容や進度は、受講生の理解度や授業態度・姿勢に応じ変更することがある。</p>			
<p><b>【全体の授業計画・内容】</b></p>			
1. オリエンテーション			
2. 教育課程編成の基本原則			
3. 社会における教育課程の役割と機能			
4. 学力と教育課程			
5. 近現代日本の教育課程の歩み① ーペスタロッチ、ヘルバルト、大正自由教育などー			
6. 近現代日本の教育課程の歩み② ー経験主義からの影響ー			
7. 近現代日本の教育課程の歩み③ ー系統主義への転換ー			
8. 近現代日本の教育課程の歩み④ ー現代化から人間性重視へー			
9. 近現代日本の教育課程の歩み⑤ ー新学力観の追求ー			
10. 近現代日本の教育課程の歩み⑥ ー「生きる力」ー			
11. 近現代日本の教育課程の歩み⑦ ー「主体的・対話的で深い学び」ー			
12. 教育課程の編成① ー構成要件・変遷・基本原則ー			
13. 教育課程の編成② ーカリキュラム・マネジメントー			
14. 教育課程と評価			
15. まとめ			
<p><b>【準備学習の内容】</b></p> <p>予習のあり方: ニュースや新聞などの教育・子ども・学校に関する記事に関心を示し、幅広く情報を得ておくこと。児童館や子育て支援サークルなどの保育ボランティアなどたくさんの経験を積極的に積むこと。教育や子どものことなどについて書かれた岩波新書や中公新書などの新書本なるべく多く読むこと。</p> <p>学習のあり方: 学習のあり方: 教育者・保育者は子どもの育ちに責任があるということ、教育者・保育者である自分の言動が子どもに対し善悪交々の多大なる影響を与えること、を自覚すること。その上で、子ども自身が育っていくことに自分がどのように関わっていくことができるのかを想定しながら、授業やグループワークに参加してください。</p> <p>復習のあり方: 授業内容についての疑問点を整理し、ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解いて</p>			

みること。疑問や質問は授業中でも授業後でも必ずその時に解決する習慣をつけましょう。

**【成績評価】**

課題提出などを含む授業への参加度合(20%)、試験(80%)をもとに総合的に評価する。すべて出席するのが原則です。遅刻・欠席は「参加度合」として不適切と判断します。健康管理や早めの行動を心がけてください。

**【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】**

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

**【テキスト】**

レジュメおよび資料を配布する。

**【参考文献】**

授業中に適宜指示する。